

北海道えりも町におけるエゾシマリスの外来植物利用の一例 —外来植物駆除の必要性—

堂元菜々実¹⁾・中岡利泰¹⁾

キーワード

エゾシマリス、外来植物、アメリカオニアザミ

はじめに

エゾシマリス (*Tamias sibiricus lineatus*) (図1) は北海道の全域（離島を含む）に生息する地上性のリスで、植物の種子・果実、芽や葉、花、動物質などを餌生物として利用している¹。本種は巣内に食物貯蔵をする冬眠動物であり、夏期から冬眠の準備を始め、9~5月ごろまで地下に掘ったトンネルや樹洞で冬眠する^{1,2}。北海道えりも町では、山岳地帯において生息が確認されている。



図1. エゾシマリス

また、アメリカオニアザミ (*Cirsium vulgare*) (図2、図3) は、キク科アザミ属の1~2年草であり、葉の形は3~6対の羽状中裂で、茎、葉、総苞片の先に刺があることが特徴である³。ヨーロッパ原産の外来種であり、日本では1960年代に初めて北海道で侵入が確認され、現在は北海道、本州、四国、琉球に分布している⁴。アメリカオニアザミは、散布力、繁殖力、気候への適応力が非常に強く、在来種と競合し生態系への影響が大きいことから、環境省の生態系被害防止外来種に指定されている⁵。また、北海道ブルーリスト2010で

は、最も生態系等への影響が懸念される「カテゴリーA」のA2に分類されている⁶。アメリカオニアザミは、鋭い刺を持つことから、人体や家畜への被害が問題となっている。また、シカが利用しないため、本種が優占しやすい。えりも町においては、道路脇、住宅地、農地、牧草地、海浜等で見られるほか、観光地として多くの人が訪れる襟裳岬の遊歩道でも確認されている。また、豊似湖（えりも町字目黒）へ続く林道沿いでも見つかっており、分布を広げている。



図2. アメリカオニアザミ



図3. アメリカオニアザミの頭花

えりも町において、エゾシマリスがアメリカオニアザミを接食していた一例を確認したため、報告する。

1) えりも町郷土資料館 〒058-0203 北海道幌泉郡えりも町字新浜 207 番地

確認地点および日時

観察地：北海道幌泉郡えりも町字庶野
42.0735766 143.2965214 (標高約 280m)
確認日時：2023年9月7日 16:30ごろ
観察者：中岡利泰、堂元菜々実
道路上で、エゾシマリス1個体がアメリカオニアザミの冠毛のついた種子を両前足で持ち、口元に運ぶ様子を観察した（図4）。



図4. アメリカオニアザミの種子を食べるエゾシマリス



図5. エゾシマリスの食痕（冠毛が残る）

考察

本例では、エゾシマリスが道路上に落ちていたアメリカオニアザミを食していたところを観察した。アメリカオニアザミの高さは50~100cm程度で、葉や茎には鋭い刺があり、エゾシマリスが自生しているアメリカオニアザミに登って綿毛を利用しているとは考えにくい。本例において、エゾ

シマリスが道路上に落ちていたアメリカオニアザミを利用していたことから、偶発的な利用であることが示唆される。

アメリカオニアザミを利用した理由の一つとして、2023年の夏季は、高温少雨の影響と考えられるヤマグワ、コクワの果実、ミズナラ、カエデ類等の広葉樹の種子が凶作であり、エゾシマリスにとって餌となる植物種を広げる必要性が生じたことが推測される。アメリカオニアザミの分布が拡大傾向にあることから、今後はアメリカオニアザミを利用する個体が増加する可能性がある。

えりも町郷土資料館では、2023年4月1日～2023年10月31日の間に、えりも町内の路上で、エゾシマリスのロードキル個体を5個体収集した。また、町民からも「2023年はエゾシマリスが道路を横断する姿をよく見る」との声も寄せられていた。

牧草地脇や道路脇に分布するアメリカオニアザミを、エゾシマリスが利用することは、エゾシマリスのロードキルを引き起こす一因となることが予想される。

本報告から、外来植物の存在が、競争関係にある植物種だけでなく、在来哺乳動物にも、間接的に悪影響を及ぼす可能性があることが明らかになった。

外来植物駆除の活動

えりも町では、これまでに外来植物を駆除する活動が行われてきている。

地元住民や有志で構成される「えりも花ファンクラブ」によって、2021年から襟裳岬遊歩道において外来植物の駆除がおこなわれている。2023年5月31日の活動では、アメリカオニアザミ、ハルザキヤマガラシ、セイヨウタンポポの駆除をおこなった。

また、豊似湖へ続く林道にはアメリカオニアザミが確認されており、えりも町郷土資料館職員により、見つけ次第駆除してきたが、その分布は次第に豊似湖に近づいている。

豊似湖周辺には、リシリシノブ（準絶滅危惧種NT；環境省レッドリスト2015）、クリンソウ（絶滅危惧種II類；北海道レッドリスト2001）、エゾオオサクラソウ（準絶滅危惧種；北海道レッドリスト2001）などの貴重な植物が分布する、豊かな自然が残っている⁷。

豊似湖をはじめ、えりも町の自然を守るために、外来植物の侵入、分布拡大を阻止する必要がある。

今後は、えりも町におけるアメリカオニアザミの分布と侵入経路について調査し、地元住民と協力して駆除を進めていきたい。

参考文献

1. 村上隆広・近藤憲久（2018）「北海道の哺乳類」斜里町立知床博物館、43p
2. 川道美枝子（1999）「特集日台ムササビ会議記録 II. 非滑空性のリス科動物に関する研究および事例報告 単独行動をするエゾシマリスの生態」哺乳類科学、39(1): 185-187
3. 一般財団法人自然環境研究センター（2019）「最新日本の外来生物」平凡社、455p
4. 国立環境研究所「アメリカオニアザミ」侵入生物データベース
(<https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/80470.html> 2024年3月1日参照)
5. 環境省「生態系被害防止外来種リスト」（リスト
<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/list.pdf>；掲載種の付加情報＜植物
><https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/li>

- st/fuka_plant.pdf 2024年3月1日参照)
6. 北海道（2010）「北海道ブルーリスト2010 北海道外来種データベース」
(<http://bluelist.pref.hokkaido.lg.jp/uploadfiles/hokkaido-bluelist2010.pdf> 2024年3月1日参照)
 7. 高木大穂・中岡利泰（2016）「豊似湖観察会および豊似湖入込数調査で確認された動植物」、えりも研究第13: 7-12